

宮城県教育委員会

令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業 (病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業) 事業成果報告 宮城県教育委員会

1. 背景・目的

事業開始前の状況と課題

- ❑ 病気療養による長期欠席を理由に、休学や退学をした生徒は依然として存在
- ❑ 担任等が病室を訪問しての個別指導、課題の添削 ⇒ 教員の負担大
⇒ 添削指導は生徒の躓きに対応が困難
生徒の学習意欲を保つのが困難
- ❑ 教員は入院生徒の状況が分からない ⇒ 学習指導が治療の妨げにならないか不安
- ❑ 教員は病院と連携した経験が乏しい ⇒ 病院と連携を開始する具体の手順が分からない
- ❑ 教員が遠隔授業に慣れていない ⇒ ICT機器の活用や単位認定に不安

目的

速やかな支援開始

医教連携コーディネーターを活用し、医療機関と高等学校の連携体制を構築して、病気療養中の生徒に対する学習支援への学校側の心理的なハードルを下げる。



生徒の状況に合わせたICT活用

ICTを活用した遠隔授業を実施するための環境・機器の整備と充実に努めるとともに、適切な活用の方法について学校へ助言を行う。



すべての生徒へ支援を！

同時双方向型及びオンデマンド型授業による学習支援の事例を収集及び研究して情報を発信し、医療機関や学校への理解啓発を図る。



令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告 宮城県教育委員会

2. 実施体制

□ 会議体（構成、内容）

イ 東北大学病院主催の連絡協議会に参加。病院、市立高校、私立高校との情報交換。（年2回）

ロ 宮城県がん対策推進協議会にて情報提供。（担当班長出席）

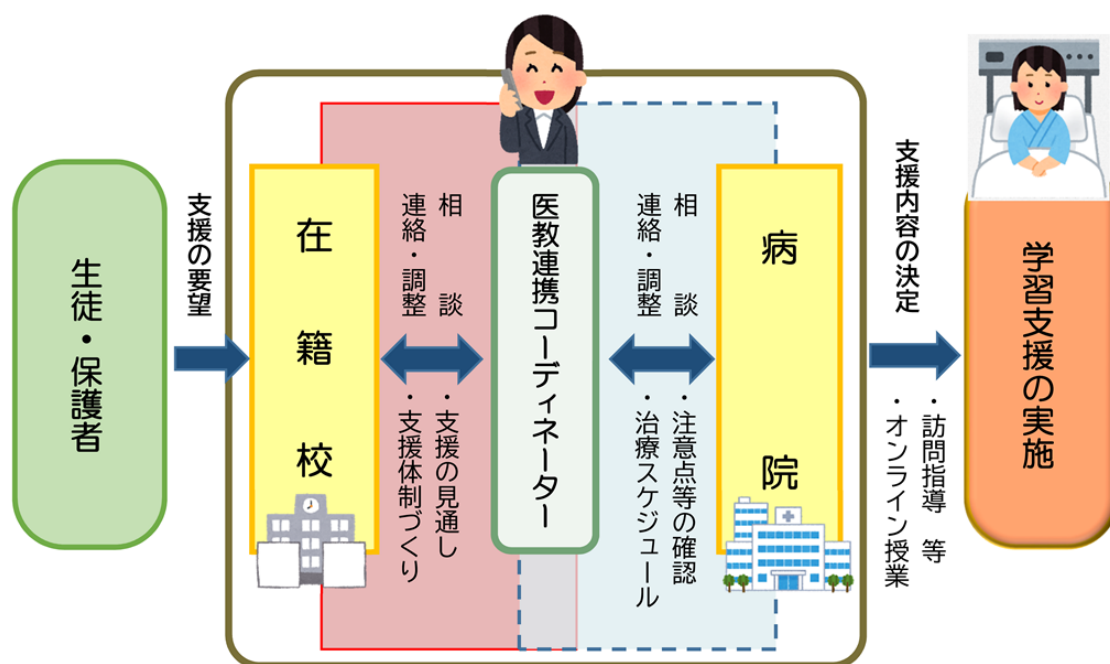
ハ 行政担当と医教連携コーディネーターの打ち合わせ。（随時）

□ 事業実施学校 すべての県立高等学校

□ 連携する医療機関 東北大学病院、県立こども病院

□ 医教連携コーディネーター

県立高等学校の教諭1名を任命。連携病院である「県立こども病院」に最も近い県立高等学校に配置。



医教連携コーディネーター（医教連携Co）

- ・学校と病院の橋渡し
- ・学校へ遠隔学習支援のアドバイス
- ・入院生徒に関する相談

高校教育課担当者

- ・医教連携Coとともに病院へ事業説明
- ・遠隔教育機器の整備、拡充
- ・ICT機器活用に関するアドバイス
- ・単位の履修、修得に係る相談



令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告 宮城県教育委員会

3. 実施内容及び結果

□ 対象生徒の要件、学校種

- イ 県立高等学校に在籍している生徒。
- ロ 病気や怪我による入院中の学習支援を希望した生徒・家庭・学校を支援。
- ハ 入院期間は長期入院に限らない。入院後の自宅療養期間も対象とした。

□ 同時双方向型・オンデマンド型授業で用いるICT機器・教材

- イ 病院に備え付けの学習用Wi-Fi又は県教育委員会が貸し出すモバイルWi-Fiルーターを利用。
- ロ 県立高等学校に導入されているGoogle Workspace for Educationの各種サービス（Google ClassroomやGoogle Meet）を用いて、授業の配信や課題・教材のやり取りなどを行った。
- ハ 同時双方向型遠隔授業の場合は、テレプレゼンスロボット「kubi」を授業配信教室に設置。
- ニ オンデマンド型授業では、授業の録画をGoogle DriveやYouTube（限定公開）にアップロード。

□ 同時双方向型・オンデマンド型授業を実施した教科・科目

- イ 教科・科目は限定しなかった。
- ロ 実技を主とする科目や実習など、遠隔による授業が必ずしも適さないものについては、病気療養中に同時双方向型やオンデマンド型の授業により座学の部分を行い、復校後や登校可能な日に対面指導が適する部分を補完するなど、柔軟な対応を行った。
- ハ ホームルーム活動や学校行事などについても、治療計画上問題がなければオンラインで参加し、友人たちや学校との繋がりが保てるよう工夫した。

令和6年度の支援件数 (令和7年1月31日現在)	支援事例の総数	同時双方向型授業による 支援件数	同時双方向型・オンデマンド型の 併用による支援件数
	16件	11件	5件

令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告 宮城県教育委員会

3. 実施内容及び結果

□ 学習評価の実施方法と工夫

- イ 同時双方向型授業 ⇒取組状況・成果物を評価
- ロ オンデマンド型授業 ⇒Google Classroomへの振り返りの投稿、小テストやミニレポート、オンライン面談を活用
- ハ 定期考査の扱い ⇒受験した期を参考とし見込みでの評価
⇒院内受験2件（医教連携コーディネーターの支援で病院と学校が連携）
- ニ 進級・卒業の要件 ⇒同時双方向型・オンデマンド型の授業による出席認定、教室で通常の授業を受ける生徒と同一の基準により学習の成果を認めている

□ 復学に向けた支援の実施状況

- イ 退院後の自宅療養期間に学習支援・オンライン面談を実施し、復学への橋渡し
- ロ 特別支援委員会を設置し、当該生徒に係る情報交換や支援の在り方の協議

□ 普及・啓発の取組等

- イ 校長会・教頭会で事業内容について周知
- ロ 教務主任連絡会議での情報発信
- ハ 「医教連携クラスルーム（Google Classroom）」を活用した情報発信
- ニ リーフレットの配布
- ホ 医教連携コーディネーター・医療従事者によるオンデマンドセミナー（11月中旬～1月末配信）
- ヘ 新規医療機関での事業説明（教育委員会担当者と医教連携コーディネーターが訪問し実施）

生徒・保護者・教員の感想

- ・ 成績がどうなるかわからない不安があったので、学習支援が受けられてとても助かった。



生徒

- ・ 会えなかった友達や先生に会えたのがとても嬉しかった。
- ・ 先生たちは親身になってくれるので、頼ってよい。

- ・ 突然の入院で、「留年してしまうかも」と不安だったが、先生方に助けていただき、オンライン授業ができたのはとてもありがたかった。



保護者

- ・ 録画の授業は、治療スケジュールに合わせて取り組めたのでとても良かった。

- ・ 授業だけでなくクラスの様子も知らせることができ、入院中の不安や長期欠席で感じる疎外感を軽減できたと思う。



教員

- ・ 県の事業を利用することで、遠隔授業実施の校内体制を整備し充実させることができた。

令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告 宮城県教育委員会

4. 成果・課題

2年間の取組の成果・効果

病院との連携強化

- ・ 協力病院である東北大学病院、県立こども病院に加え、病院規模の大小や診療科を問わず、多くの病院との連携を経験。
- ・ 遠隔授業による学習支援が可能であることを初めて知ったという病院も多くあったが、当該事業を通して支援を経験したことで、今後、新たな事例にもスムーズに対応することができる。

自走する学校が増加

- ・ 当該事業を利用した経験のある学校は、再び入院生徒の支援が必要となった場合、学校独自で病院と連携し、支援を進めることが増えている。
- ・ 医教連携コーディネーターの支援により、病院との連携のノウハウを身に付け、トラブルや遅延なく支援を開始することができている。

遠隔授業の実施・評価の経験を蓄積

- ・ 多様な学習ニーズに対応する遠隔授業の実施体制が各校で整いつつある。
- ・ 同時双方向型授業のみならず、オンデマンド型授業の実施件数も増えているが、対面授業と同等の教育効果をもたせるための工夫が各学校でなされている。
- ・ 出席確認、試聴確認、評価等の実践事例を蓄積できた。

今後の方向性、検討事項等

- ・ 医教連携コーディネーターを配置しての学校支援を継続するが、将来的には、すべての学校が自走し、病気療養中であっても学習機会が保障される校内体制を確立させる。
- ・ 他自治体の好事例も参考に、実技教科・専門教科の同時双方向型授業・オンデマンド型授業の学習効果を高める方策を引き続き研究し、学校への情報提供、普及を進める必要がある。
- ・ 通信環境の整備とタブレット端末等の整備が課題。特に小規模の病院ではWi-Fi環境が整わない場合が多いため、入院生徒の学習機会を保障するための予算措置が継続して必要となる。